

ヤクルト・リリーフ今野が抱負

ヤクルトのリリーフ、今野龍太(28)＝宮城・岩出山高出＝が8日、仙台市内で河北新報のインタビューに応じ、「勝ちパターン的一角として勝利に貢献したい」とシーズンに向けた抱負を語った。

(13面に関連記事)

―昨季は26試合の登板で、防御率3・77。チームもリーグ3連覇を逃した。

「悔しさはあった。いいときばかりではないと痛感し、大事な経験だったと思っている。抑えた試合はあったものの、感覚として手応えはなかった」

―今季に向けて強化するところは。

「直球に速さが全然なかった



「東北のみなさんを勇気づけるプレ―をしたい」と語る今野＝8日、仙台市のホテルメトロポリタン仙台

「勝ちパターンの一角として貢献」

た。今まで空振りを取っていた球が打たれていた。昨年末にハワイへ行き、約2週間ウエー・トトレーニングで鍛えてきた。1年間を乗り切る体力、150キを投げられる筋力を培いたい」

―昨季は最速が149キと150キを下回り、平均球速も143キだった。真ん中、低めの直球を狙われる割合も高かった。

「垂れた(沈んだ)球を仕留められたと思う。自分の長所は球がホップする(浮き上がる)ところ。(打者が)分かっているても空振りを取れる直球を投げたい」

―東北楽天で同期入団だった松井裕樹投手がパドレス入りし、米大リーグでの挑戦が始まる。

「2022年に初セーブを挙げたとき、毎回この状況で投げている松井のすごさが分かった。野球選手として差が開いてしまったが、少しでも近づけるように頑張る」

―今季の目標は。

「(21、22年と達成できた)50試合以上の登板。日本シリーズをテレビで見たい」「ここで投げたかった」と感じた。もう一度、優勝したい」